

小中一貫教育の推進に係る有識者等懇談会まとめ

1 小中一貫教育の推進に係る懇談会設置の背景及び目的

国の動向

- ◆「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」
(H9中教審第二次答申)
- ◆「義務教育学校」設置を可能とする改正学校教育法
(施行H28.4)
- ◆「『令和の日本型学校教育』の構築を目指す」
(R3中教審答申)

名古屋市教育振興基本計画 (H19～名古屋市教育委員会)

- ◆ 子ども一人一人の個性を大切に、社会で活躍できる力を育成する人生(ライフキャリア)の支援を進める視点や、画一的な一斉授業からの転換を進め、質の高い学びの促進を図る視点などを重視

ナゴヤ学びのコンパスの策定 (R5名古屋市教育委員会)

- ◆ 全ての子どもが自分らしく、幸せに生きていくことができるように、「子ども中心の学び」を幼児期から青年期まで一貫して大切にすることを旨とする

懇談会設置の目的

名古屋市の全ての公教育において一貫した教育を進めるにあたり、9年間にわたる義務教育期における小中一貫教育の在り方を明らかにすると共に、これからの社会において求められる義務教育の姿を実現するための方策について考え方を整理する

2 名古屋市が目指す小中一貫教育についての考え方

名古屋市の現状と小中一貫教育の必要性

- R1～ ナゴヤ・スクール・イノベーション事業
 - ・ プロジェクト型学習のモデル実践校(R1～)
 - ・ 各校種において官民連携で学びの転換を進める「マッチングプロジェクト」の推進(R3～)
- R5～ ナゴヤ・コンパス・プロジェクト
 - ・ 子ども中心の学びを全学校園で推進することをねらいとして5つのプロジェクト(P)を展開
 - すすめるP[授業実践]
 - ひろがるP[学びの機会]
 - つくりてP[人材育成]
 - かいぜんP[学校運営改革]
 - つながるP[学校間連携]
 - ※異校種を含めた学校間における連携した教育の推進
- R6～ ナゴヤ学びのコンパス

「ナゴヤ学びのコンパス」を基とした教育を、全ての学校園がその実現に向けて取り組んでいく

小中がこれまで以上に連携し、義務教育9年間に一貫教育を展開することが重要

3 名古屋市における小中一貫教育推進の基本的な考え方

「ナゴヤ学びのコンパス」を基とした教育を小学校と中学校の9年間に一貫して推進することを小中一貫教育の目的とし、その推進の基本的な考えを3つの柱に整理して具体的に示します。

<1つ目の柱> 名古屋市における小中一貫教育の在り方

市内110の中学校ブロックがある名古屋市において、地域や子どもたちの実態に応じて、各ブロックが一貫教育を推進していくために、名古屋市が目指す小中一貫教育の姿と、今後の取組について整理しました。

<全ての中学校ブロックにおける小中一貫教育の概要>

<目的> 「ナゴヤ学びのコンパス」を基とした教育を、小学校と中学校の9年間に一貫して推進する

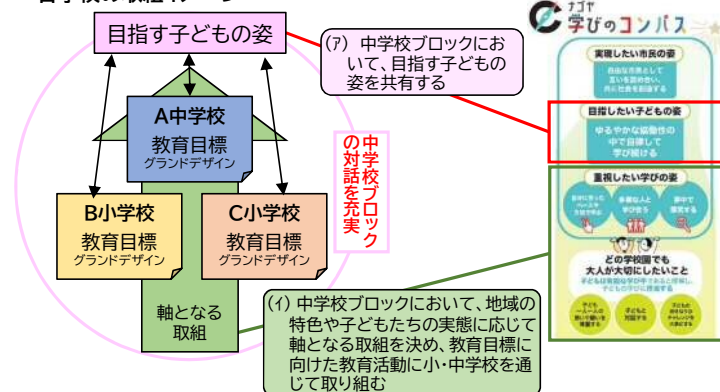
<名古屋市が目指す小中一貫教育>

- ① 中学校ブロックにおいて目指す子どもの姿を共有する
- ② 中学校ブロックにおいてつながりのある教育を行う

名古屋市が進める小中一貫教育の取組

- (7) 中学校ブロックにおいて、目指す子どもの姿を共有する
- (4) 中学校ブロックにおいて、地域の特色や子どもたちの実態に応じて軸となる取組を決め、教育目標に向けた教育活動に小・中学校を通じて取り組む
- (9) 名古屋市において、9年間を通じた学びの実践例を作成する
- (1) 研修の機会を充実し、小・中学校の教職員の意識と指導力をさらに高める

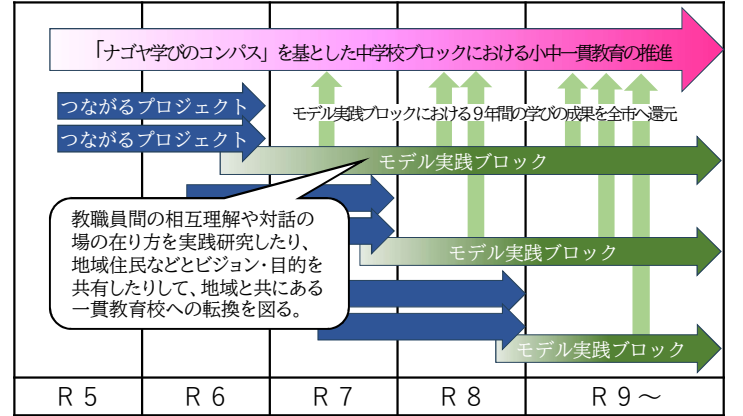
<各学校の取組イメージ>



<2つ目の柱> 中学校ブロックにおける小中一貫教育の推進

「ナゴヤ学びのコンパス」を基とした小中一貫教育の推進に向け、小中一貫教育の在り方を実践研究し、その成果を全市へ還元するモデル実践の推進の在り方について整理しました。

<推進案>



<3つ目の柱> 名古屋市の教育を牽引する学校の在り方

次の時代に求められる義務教育の姿をつかみ、様々な先行実践を大胆に行い、これからの義務教育の在り方を示すことができる学校の必要性について検討しました。

牽引する学校のねらい

- ① 先を見据えた学校としての役割
次の時代の教育を敏感につかみ、これからの義務教育の在り方を示します。
- ② 研修や視察の機会の充実
市内に研究開発し続ける学校を設置し、視察や研修のチャンスを増やします。
- ③ 名古屋市への還元
実践成果のエッセンスを研修や職員交流を通して市内の各校へ広げます。

牽引する学校が目指す姿

- 誰一人取り残すことのない、子ども中心の学びを実現する一貫教育の創造
- 子ども中心の新しい学びをデザインできる教員の育成
- 学ぶこと、探究すること、創造することにワクワクする子どもの育成

学校の在り方(制度の活用)について、次の内容を検討しました。

- ・ 義務教育学校制度の活用(教育課程特例を活用した9年間の学びの実践)
- ・ 教育センター附属校としての位置づけ(指導主事と共に授業研究・研修機能の強化)

4 まとめ及び今後に向けて

- ◆ 名古屋市では、「ナゴヤ学びのコンパス」を基に、他者と協働し、自律して学び続ける子どもの育成を目指した教育を、幼稚園から高等学校において一貫して進めていきます。その上で、名古屋市における小中一貫教育の在り方及び、中学校ブロックにおける小中一貫教育の推進について、今後の小中一貫教育の推進の方向性について明らかにすることができました。
- ◆ 今後は、「ナゴヤ学びのコンパス」を基とした教育の実現に向けた取組の中で、小中一貫教育の推進に際しては、教員の意識改革や対話のための時間確保などの配慮や対策を講じながら、持続可能な取組になるように進めると共に、時代の変化に即応していく柔軟性も含めながら推進することが大切であると整理しました。

- ◆ 「名古屋市の教育を牽引する学校」の検討では、実践的かつ先進的な教育に取り組み、視察や研修の機会の充実につながる(名古屋市の教育を牽引する)学校は、名古屋市の教育推進や教員の育成の点において設置の意義はあると整理しました。

- ◆ 今後は、名古屋市の教育を牽引する学校の在り方について、一貫教育校の制度や、学びの多様化学校の考え方を踏まえて検討するなど、継続して丁寧な議論をしていくこととしました。